

# ヒロシマ ユネスコ

## ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ばう

# 人間性を取り戻そう

## ヒロシマで具体的論議を

広島ユネスコ協会会長 河村盛明



「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」——このユネスコ憲章の言葉は、まだ第二次大戦の戦禍の生なましい一九四五年十一月、ロンドンの各国文相会議で採択された。この時期とその言葉の意味を思うたびに、言い知れぬ感動を覚える。

戦争の惹き起こした言語に絶する破壊はいうまでもなく、それ以上にすさまじい人心の荒廃をもたらした現実に向かって、世界の人々が等しく「人間をかえせ」の叫びをあげた姿が、ありありと迫ってくる。ナチスの目に余る暴虐、原爆による無差

別大量殺りくをはじめ、戦争のあらゆる局面で、人間がその残酷性の極限を見せたことに対する深い危機感が、この言葉を生み出した。しかも、この理想は、単にユネスコだけではなく、戦後数年間、さまざまな国際機関や国際状況の中でくり返し唱えられたはずである。「全世界に正義と秩序とを基調とする永遠の平和が実現することを念願し、常に基本的人権を尊重し……」と述べたわが国の憲法も、間違いなくその一環なのである。ある意味では、この数百年は、世界の人々が、一つの平和理念に燃えた輝やかしい歴史の一齣であったともいえる。

しかし、その後の歴史は、必ずしもこの道筋を歩いているとは言いがたい。大國間の根強い対立ととどまることのない核兵器の軍拡競争に歯止めをかけることができないばかりか、その一

方では、飢餓と貧困の問題が、ますます深刻化している。一体「心の中に平和のとりでを」、「全世界に正義と秩序を」というあの燃えるような理想はどこに行ったのだろうか。ユネスコがその理想に最も近い国際組織であり、その存在の意味は、今日なお失なわれていない、いやますます深まりつつあるといえます。

- 広島ユネスコ協会  
五十八年度役員
- ◇名誉会長 荒木武
  - ◇顧問 内海巖 永井滋郎 岡田泰二
  - ◇会長 河村盛明
  - ◇副会長 古川浩司 信井正行
  - ◇常任理事 永井澄 藤井千之助 太鼓矢晋 森分孝治 (組織活動) 吉岡尊治 山崎克洋 水野文隆 (文化活動) 加藤朗一 新川貞之 定宗一宏 (国際交流)
  - 幹夫

動世界大会の広島会場では、「平和と人権」についてのシンポジウムが開かれる。これを機にユネスコの命題に立ち帰る「人間性を取り戻す」ことについての具体的な論議を少しでも深めてほしい。そうすることが、被爆地ヒロシマの使命でもあると思うからである。

溝上泰 北川建次 永田龍男 (広報活動) 高橋昭博 亀井章 古田碩永
- ◇理事 俣野仁一 齊藤清三 尾尻隆之 江川琢也 滝口節夫 池田博重 末野忍 長迫凱郎 福永武志 山根繁徳 木山香寿美 藤原康子 深崎敏之 藤井正一 伊東亮三 松岡盛人 薄田信也 兼田是樹 石田昌義 榎原清
- ◇事務局次長 山口和彦

## 民間ユネスコ運動

## 初の世界大会を日本で

## 民間運動発祥の地仙台で

## 世界の平和と人類の福祉を求めて

7月19日から仙台などで

一九八一年（昭和五十六年）パリで世界ユネスコ協会クラブ連盟が創立された。略称は、W F U C A で、世界に通用する。国際連合加盟百六十か国のうち八十か国にあるユネスコ協会やユネスコクラブは、二千五百に達している。世界ユネスコ協会クラブ連盟会長は、日本ユネスコ協会連盟会長・数納清氏が満場一致で選ばれ、しかも、一八四四年に第一民間ユネスコ運動世界大会を、世界最初の民間ユネスコ運動発祥の地仙台をも

一九四七年（昭和二十二年）七月十九日、仙台ユネスコ協会（仙台ユネスコ協会の前身）が創設された。その設立趣意書によれば、「平和をもちたてる運動は、国家の指導者と少数の代表にまかせておくべきではない。」と述べられている。私は、ここに N G O の役割をこの時点

において感得された先覚者の英知を憶うとともに、今日の国際情勢のもとにおいて「世界の平和と人類の福祉」の実現をめざす世界最初の運動が、第二次世界大戦の直後、わが国で民間人の手によって始められたというこの歴史的事実の重みを、改めて深い感銘とともに考えざるを得ないのである。世界大会の会場の一つとして仙台が選ばれたのも、こうした歴史的背景からおのずと理解されるであろう。

そのテーマを「平和・開発・参加」としたのにあわせて、これをさき取りして、民間ユネスコ運動世界大会のテーマとするところが世界連盟幹事会議で承認されたことによるのである。ユネスコ運動世界大会に参加が予定されている外国人の多数は青年であるということを考えると、青年こそ平和運動の担い手としてふさわしいというべきであり、この大会の開催が、二十一世紀をめざす世界をあげての青年運動の先導的役割をもつものであることがわかるのである。

## 神戸、広島でもシンポジウム

神戸会場では、シンポジウム

「開発と人権」のほかに、世界青年のつどいもたれる。これは、日本青年ユネスコ連絡協議会が日本ユネスコ協会連盟と共催する事業として実施される。

世界大会に参加した各国ユネスコクラブの青年と日本各地のユネスコ協会青年部に所属する青年とが、神戸で交流し、交歓して、今後の相互交流のきずなを強めようとの意図によって行われる。したがって、世界青年のつどいに参加した青年たちのう

ち、そのかなりの数の人々が、外国参加者とともに、広島会場に参加するとみこまれている。

広島会場については、高橋昭博常任理事が解説されるので、詳細は省略する。世界大会に参加の外国人は、広島で原爆による被害の実情や今日に及ぶ被害の影響などを含めて、核問題を中核とする「平和と人権」のシンポジウムに大きな期待をもっていることが、パリのユネスコからも伝えられている。私としては、日本の民間ユネスコ運動の関係者はかりでなく、この機会を活用して広範囲の広島市民の各位が、広島会場にどう外

## 第1回民間ユネスコ運動世界大会スケジュール

(予定)

- (1) 日時／1984年7月15日～25日
- (2) 大会テーマ／「平和、開発、参加」
- (3) 日程概略／〔世界連盟世界会議（仙台市・市民会館）〕 ◇7月16日＝開会式（民間ユネスコ世界大会）、事業・経理報告 ◇7月17日＝基本方針について、事業・予算審議など ◇7月18日＝平和・開発・参加の基本提案〔仙台大会（仙台市・県民会館）〕 ◇7月18日＝開会式（ユネスコ運動全国大会）、基調講演Ⅰ（平和と軍縮）、同Ⅱ（開発と南北問題）、分科会Ⅰ（平和部会）、同Ⅱ（開発部会） ◇7月19日＝分科会Ⅰ・Ⅱ（つづき）、エクスカーション、民間ユネスコ発祥記念式典〔神戸大会（神戸市・国際会議場）〕 ◇7月20日＝世界青年のつどい、シンポジウム（開発と人権）、交流会 ◇7月21日＝世界青年のつどい（つづき）〔広島大会（広島市・全日空ホテル）〕 ◇7月22日＝平和記念資料館訪問、映画・被爆者との対話集会、シンポジウム（平和と人権）、懇親会〔東京大会（新宿区・日本青年館）〕 ◇7月23日＝全体討議Ⅰ ◇7月24日＝全体討議Ⅱ、大会決議案採択、閉会式、サヨナラ懇親会
- (4) 地方研修プログラム（7月20日～7月22日）／神戸、広島会場に参加しない外国人を各県連で受入れ

7月22日

# 「平和と人権」テーマにシンポ

## 被爆の実態に触れ、「ヒロシマ」を考える

国の民間ユネスコ関係者と交流を深め、「ヒロシマの心」を正しく伝えることを通して、「ノーマ・ヒロシマズ」の呼びを全地球上に拡大する運動に参加・協力していただきたいものと強くお願い申しあげる。

世界大会には、ユネスコ事務局長・ムーボウ氏 (Mr. Amadou Mahtar Mbow) が仙台会場に参加される。「平和と軍縮」の

基調講演には、アルバ・ミュルダル、アルフォンソ・ロブレス、フランク・ブラツカビーのうちのひとりが予定される。(只今交渉中)そして、広島会場にも併せて参加くださることになっている。すべてこの分野における世界的権威の方であり、広島市民にもよく知られている。

仙台会場では、前述のように「平和と軍縮」の分科会がもた

れるが、ここでは「平和と教育」も併せて討議されることになるであろう。広島会場では、以上の討議をふまえて、「平和と人権」が主題となる。国際連合憲章、ユネスコ憲章、世界人権宣言、国際人権規約にもとづく基本的人権の尊重こそ、世界平和の基礎であるとする認識のもとに、地球上にあふれる各種の人権侵害の具体的事例が、討

議の対象となるであろうことが十分に予想される。しかし、シンポジウム「平和と人権」としては、時間的制約による内容の整理と集約とは避けられないことである。特に、広島会場としての場合、核廃絶をめざす地球市民の連帯による具体的な実践運動への展望という問題を中核として討議されることが、その特質を鮮明にするゆえんでもあ

る。このことは、また、午前中の平和記念資料館と被爆の実相を伝える映画とによる、なまなましい学習の成果や被爆者との対話集会での体験や感動との関連から考えて、密度の高いシンポジウムの展開が期待されるのではなからうか。

世界大会の概略を述べ、各位とともに、実現への努力を誓う次第である。(顧問・内海巖)

広島には、七月二十一日(金)の午後、世界各国のユネスコ代表を含めた参加者が集まることになっている。翌二十二日(土)午前中は、平和記念資料館の見学、原爆死没者慰霊碑への参拝、原爆記録映画「ヒロシマ・ナガサキ」核戦争のもたらすもの「ないしは「ヒロシマ・原爆の記録」の鑑賞、被爆者との対話集会の開催が予定されている。午後から、全日空ホテルを会場として、「平和と人権」をテーマにシンポジウムが開かれる。

このシンポジウムは、世界的にいたるところで、政治的、経済的、社会的に個々のさまざまな人権無視が見られるほか、平和

を脅かす大規模で組織的な人権侵害も続いている。たとえば、人種差別、民族自決権の無視、他国への内政干渉、外国領土の占領や侵略、集団殺害、戦争の犠牲である難民問題などが、依然として根強く横たわっている。とくに、人権が最も侵害されるのは戦争においてであり、いま、核戦争の無差別大量殺りくの前に、人類の生命と安全が大きく犯かされようとしている。——という基本的な考え方に基づくものだ。

なかんずく、広島においては、「ヒロシマ」の持つ意味、つまり、被爆の実態に直接触れ、被爆者がおかれていた状況をつま

えて、平和の意義と被爆者の人権、現状の核兵器の脅威について考え、さらには、ヒロシマと南北問題とのかわりについても討議することになる。

このシンポジウムの講師には、米国議会において核凍結・削減のため、熱心に活動しておられるケネディ上院議員(民主党)ないしはハットフィールド上院議員(共和党)、西独の反核市民運動の代表、南北問題に造詣の深い栗野広島大学平和科研センター前所長、第三世界の国からの代表、それに、地元広島からの被爆者代表——が、現在、候補にあげられ、それぞれ来広の交渉に当たっている。

広島は、平和と軍縮」と題して、基調講演をされる講師(現段階では、ストックホルム国際平和研究所長のフランク・ブラツカビー氏が有力とされているが、

想が実現すれば、広島におけるかつてない国際会議となるだろう。

経費は、県・市の補助金と募金などでまかなわれる。広島ユネスコ協会会員・役員の方々の募金活動への理解と協力、そして、広島シンポジウムへ向けての諸準備に対して熱意あるご助力をお願いしたい。広島ユネスコ協会、県連ユネスコの総力をあげて取り組みなければならぬ。(常任理事・高橋昭博)



動員学徒が着ていた制服。三位一体の資料と呼ばれている。——平和記念館提供

「雨天順延になり、本校の文化祭が当日に重なってしまいました。残念ながら参加できません。来年は、きつと……。」

受話器の向こうから、聞き馴れた顧問の先生の声が、今日もまた一つ届く。一抹の淋しさと同時に、着実に広がっていく連帯のぬくもりを噛みしめつつ、そっと受話器を置く。

広島ユネスコ高校生のごども今年で満六歳を迎えた。

五月二十八日、本年度第二回顧問教師準備会において、加藤朗一常任理事の提唱になる、さまざま新しい試みが盛り込まれた年間計画が決定された。それに基づいて、生徒準備会には、

去る十月一日、二日の両日、鳥取市において、一九八三年度中国ブロック・ユネスコ活動研究会が開催され、参加の機会を得たので報告させていただく。

研究会は、ルーベン・アピト上智大学講師の「第三世界と日本」と題する記念講演で始まった。この中で、先生は、「第三世界の人がとが願っているのはただあたりまえのことだけなのである。自分のところの自然の恵み自分たちの手で管理し、自分の恵みを自分たちの手で管理し、自分の働きの実りを自分の生活に還元できるように社会条件——平和に暮し、お互いの自

己の生活に還元できるように社会条件——平和に暮し、お互いの自

中華人民共和国からの留学生との交流会が導入され、また、二年ぶりに実施された、たいどう彫刻村での夏季セミナーにおいては、内海巖顧問が作成くださった資料をもとに、太鼓矢常任

### 11月6日 高校生のつどいを開催

## 活動内容に幅と深み

理事指導の学習会が組み入れられるなど、今年も活動内容に幅と深みが加えられた。かくして十一月六日を迎える。

冒頭に述べた事情のため、参加校数こそ例年に比べて少なからず分を大切にしような、きわめてあたりまえの生活である。日本は、経済開発の名のもとに、これら第三世界から多くの自然の恵みをとりにあげているが、そのために、ますます多くの人が

だったが、総勢三十一名がつどいに参集した。生徒の運営による開会行事、自己紹介、ゲーム等のあと、内海顧問から、コアクシヨンの意義・心構えについての簡潔な教示があった——募

金額の多少ではなく、みずから街頭に立って呼びかけ、募金箱に入れてくださる人々のまごころに対して、現地で活かされる私たちの行為そのものが大切である——全員の心が一つに

ながら、鋭い提案をされた。続く分科会は、(1)「開発と北問題」(2)「青少年のユネスコ活動をどう深め発展されるか」——の二つのテーマですすめられた。私は、分科会(1)に参加し

融け合った。引き続き、留学生との交流会に移る。李天天(中国)、龔道栄(同)、マーブルカ・ザルイ(チュニジア)、マルティナー・シェラー(西独)、ニコラ・ラ

ドニッキー(ユーゴ)の五氏に対して次々に質問する生徒たち。鮮かな日本語で応答する留学生。予定時間を超過してなお卒直な意見交換が続いた。星食後、アンデルセン前(加

りくむユネスコ協会連盟のコアクシヨンを活動を強力に支援しよう——などが話題の中心であった。夜は、鳥取ユ協主催の懇談会がもたれたが、鳥取市長、教育

## 南北問題など協議

### 中国ブロック研究会開かる

11月1・2日 鳥取

とが土地を失い、生活を破壊され、命さえ失っている人たちのいることを忘れないでほしい。今こそ、南北が共に人間らしく生きる方向を真剣にさぐるべきとき」と、豊富な事例を引用され

た。ユネスコが開発と南北問題にどうかかわるかが話題となったが、結論的には、①各クラブが発展途上国の実態に関する学習をもっとすべきである②原爆問題とも関連した平和教育にと

長、県知事夫人、青年会議所委員長など各界名士の参加があった。盛大な中にも各ユ協とのなごやかな情報交換が交わされた。席上で、内海巖広島ユ協顧問、河村広島ユ協会長が、来年行わ

藤・太鼓矢常任理事、米田道子・林弘子教諭、そごう前(内海顧問、永田)の二か所に分かれてコアクシヨンを街頭募金活動を行う。呼びかけの言葉が記された短冊と折り鶴をゴム輪でつないだマスコット、昨年の募金額及びその送付先と感謝の言葉を裏刷りしたチラシ、パネルの活用等ここでも新しいアイデアが持ち寄られた。二時間の募金総額三万九千五百十円。「はじめは恥ずかしかった。でも、やってみてよかった。」一年生のある女生徒がボツンと洩らした。来年の夏には全国高校ユネスコ大会が、当地広島で開催される。(常任理事・永田龍男)

翌日は、全体会(前日の分科会発表と質疑応答)と閉会行事で研究大会を閉じた。

この大会に参加して良かったと思うことは、ルーベン・アピトさんというすばらしい先生にお会いできたこと、鳥取ユ協の一枚岩になった強力な組織の強さをみせつけられたこと、北の論理は、南の不利益につながることも多いという事実が気づかされたことなどであった。大変参考になった。(常任理事・山崎克洋)